流通とＳＣ・私の視点

2007年９月２日

視点(811)

器(うつわ)とノウハウの関係とは!!

あの人は社長(部長)の器ではない!!、あの人は首相(大臣)の器ではない!!、あの人は大将(指揮官)の器ではない!!…と、器についての色々な会話がなされます。では、器とは何なのでしょうか。国語辞典によると、「ものを入れるもの(容器)から始まり、任(任務)に堪える才能、器量へと意味が展開」しています。

１つの物事を実現させる思考に「知識→理論→戦略→戦術」の４つのプロセスがあります。１つの物事を実現させるということは、成果のある状態で仕上げることが必要です。実は、１つの物事を成果のある状態で仕上げる思考の４つのプロセスを「より成果の高い状態で仕上げる」ためには、理論ノウハウや戦略ノウハウ、戦術ノウハウの上位概念として**「器(うつわ)」**があります。器があるとかないとかは非常に抽象的な言葉ですが、高い成果を出すためには必ず器は必要なものなのです。

国語辞典の中にもあったように、器とは任務に堪える才能・器量と定義されています。すなわち、器とは**「任務を行う才能ではなく、任務に堪える才能」**です。同じ技術的ノウハウを持っていても、器の大小によって成果が異なることを意味します。色々な仕事をする時においても、新たな挑戦をする時には、この器は大きな役割を果たすことになります。器は、個人や会社が持っているノウハウを大きく展開できる“わく”であり、次の“可能性への要因形成”です。

この抽象的な「器」の特徴と内容を解説すると、次の通りです(六車流：流通理論)。

（１）器は相対的な発想の成果の概念

あの人は○○○の器ではないと比喩的に言われるように、１つの任務が前提にあり、その任務と才能の相対的比較の上で評価される概念です。ですから、特定の分野での器はあっても、異なる分野での器がないことが往々にあります。それゆえに、成果を出すためには、その分野の器を持った人が担当になることが必要です。

（２）器は未来的な発想の成果の概念

１つの物事を成果高く完成させるためには、現状打破型の未来からの発想が必要になります。虫の目でみる能力も必要ですが、鳥の目でみる能力こそが、器の概念です。マクロの視点から全体像を挑戦的に捉えて、ミクロの視点へブレイクダウンする手法が、器を持った人と言うことができます。

（３）器はプラス発想の成果の概念

世の中で起こったことはすべて必然性に基づいて起こったことであり、マイナス要因とは捉えずにプラス要因として捉えることが、器を形成します。比喩的に言うと「活路とは、過去の価値観が通用しないような激動の中で、今後、何が一番必要であるかを見抜き、次の時代への大きな転換を成長のチャンスに変えられる方向性のこと」(小山政彦・リーダーの条件より)であり、マイナスの環境をプラスの環境に変えることができることこそが器です。何事も起こったことをすべてチャンスとし、成功へと導く考え方が器の要因形成になります。

（４）器は、技術力とは分離された発想の成果の概念

１つの物事を成果のある状態に仕上げるためには、具体的な技術力が必要とされます。しかし、技術力と器が共有するタイプ(織田信長型)と、技術力は他の人に任せ、自分は器のみ担当するタイプ(豊臣秀吉型)、両者をバランス良く適度に持っているタイプ(徳川家康型)があります。器とは器量であって、全てを自分が行わなくても、他人の技術力をより大きく展開させ、成果を高くする才能が器です。

このように、「ノウハウを大きく展開し、成果の高いものとする“わく”(器量)」を器といい、技術的ノウハウと一体化することにより成果が形成されます。

この器をつくり出す手法は、「常に挑戦的な経験を積み重ねること」や「歴史の出来事や自然界の成り立ちをメカニズム的に学ぶこと」、「自分より器の大きい人の話を聞く、書物を読むこと」、「先進国や先進企業や先進店舗をメカニズム的に学ぶこと」によって得ることができます。自らが実際に経験して器を大きくすることも大切ですが、**「学ぶという疑似体験」**をすることによって器を大きくすることが、もっと大切で即効性がある効果が得られます。

(株)ダイナミックマーケティング社[3]
代　表　六(むつ)　車(ぐるま)　秀　之

Copyright (C)1993-2007 Dynamic Marketing Co.,Ltd. All rights reserved.